

堺市障害者自立支援協議会委員 様

堺市障害者自立支援協議会
会長 柏木 一 恵

令和3年度 第2回堺市障害者自立支援協議会にかかるご意見のとりまとめについて

平素は、障害福祉の向上に格別のご協力を賜り厚くお礼申し上げます。
さて、皆様からお寄せ頂いたご意見、ご感想を下記のとおりとりまとめましたので、ご確認ください。

(区協議会について)

■各区の協議会で子ども相談所や子育て支援課など子どもの部局から参加や意見交換に参加されています。実際、今回の協議会の取り組みをどう思っておられるのか、各区に参加された方、その部局の上の方などの感想をお伺いしたいです。今回の協議会での意見を持ち帰ってみてどうだったかなど聞いてみたいです。

■令和3年度に、はじめての取組として、区自立支援協議会の共通テーマ「複合的な課題を抱える家族への支援～その中にいる児童にも焦点を当てて～」を設定し、各区において、子どもに焦点を当てた様々な取り組みが行われたことは、大変、有意義であったと感じています。

また、取り組みの視点等で述べられているとおり、コロナ禍により地域・社会の関係が希薄化していることや、子どもにしわ寄せが行っていること、福祉支援が制限されることなどへの懸念については、同様に感じており、引き続き、子どもや家庭の負担が少しでも軽くなるよう、共に取り組んでいきたいと考えています。

■共通テーマにおいて、各区で出た課題に対して、検証をきちんと行えたらと思う。また、同じテーマを取り扱う際には、先行した区での内容などを加味し、区として改めて必要（地域性の違いなどで）か検討しないといけないと思いました。

■「子ども食堂について」では、子ども×地域×大人とインクルーシブに地域で集える場は大切です。障害当事者も子ども食堂で地域に溶け込めたらと考えます。

■共通テーマが各区で様々な取り組みがなされた事が書面を通して読み取れました。テーマとしては、大きな内容で今後も児童のおかれている状況を把握し、必要な支援体制づくりが必要と思われる為、それぞれの区の活動をヒントに、担当の区でも活用できる内容でした。

■以前の市協議会の意見に区の協議会のバラツキの意見があったように記憶している。地域特性もあり、区協議会に参加する委員の属性なども関係していると感じる。共通テーマについて、保健センターの保健師の子育て支援、外国籍の障害児支援、子ども相談所、こども食堂の活動、要対協、児童精神科、医療的ケア児の支援、あい・すてーしょんの役割など、各区にて取り組み内容も多岐に渡っていた。事例検討の事例については、複合的な課題を抱えた世帯支援を意識した事例となっていた。全体的には各区とも共通テーマに沿った積極的な取り組みで成果があったと思う。子どもの支援等について状況を知るところに力点が置かれていたので、課題を明らかにしていくところには至っていない。

■各区協議会ともにコロナの影響下で不自由を強いられながら、共通テーマについてもそれぞれ独自性のある切り口で議論されていたのが興味深かった。

■堺区の「障害者カップルの子育てについて」難しい問題ではあるが、支援の必要性をかなり感じています。これからも「障害者の権利」として子どもを産むこと、育てることを推薦します。

(当事者部会について)

■障害当事者部会についてはオンラインによる ZOOM 会議で 6 月から会議を再開することができました。初めは戸惑いがありましたが、会議が開催できたことはコロナ禍の中で委員さん達と交流でき明るさを取り戻せたと感じています。「差別について」や「65 歳問題について」など密度の高い会議ができたと思っています。

来年度に向けては、コロナ禍でヘルパーさんも障害当事者も感染という危険性を常に抱えながら生活していく事
のリスクについて話し合えたらと思っています。介護者がいないと生活できない障害者には超面している大きな
問題です。協議会全体でも取り上げて頂きたい課題と思っています。

■コロナ禍の中、大変な状況であってご苦勞されておられたと思います。いまだ先の見通しが見えない中、大変
だと思いますが、共に頑張っていきたいと思っています。当事者部会からの目線での意見等をお聞きできることは、
とても勉強になっております。

■障害福祉計画「わかりやすい概要版」に当事者部会の意見が反映されたのは大事なことだと思います。堺市の
他のセクションでもそうした取り組みが当たり前になってほしいと願います。

いわゆる「施設コンフリクト」については、改めて協議会でも正面から検討すべきテーマだと感じました。

■委員の皆さんの意見がそのまま記述されていて良かったです。特に、優勢思想について、社会の中の能力主義
から、社会を発展させた等の相反する・・・等の意見は考えさせられる所があります。しかし、誰もが住みやす
い社会を考えた時に、委員の皆さんのご意見は貴重であると思います。

■やはりオンライン開催の限界があって、欠席者が増加したのは残念だった。障害者の社会参加をもっとも保障
すべき自立支援協議会がコロナ禍でその役割を果たせないというのはなんとも皮肉なことと思う。これからの時
代はオンライン会議も当たり前になってくる。情報弱者にならない働きかけも必要ではないか。コロナ以前から
そもそも元気に集える障害者ばかりでなく、外出などが難しい障害者もいるわけで、その人たちの社会参加を保
障するための取組も視野にいれる必要があるのではないかと考えさせられた。

(強度行動障害支援ワーキングについて)

■本人・ご家族・支援者ともにまさに進行形の課題で困っている。ワーキングの成果（事例検討の場の仕組みづ
くり等）をできるだけ早く示してもらえると皆安心できると思います。施策協障害児支援専門部会でも強度行動
障害の支援について検討項目に入っています。情報共有・連携しながら進めていければと思います。

■コロナ禍受入施設が一層深刻化し、今後の方向性の「目的」が検討され、仕組みが作られていくことの必要性
を感じている。

■堺市内の「強度行動障害」と言われる方との実態について再度把握していきたい。(対象者数や生活実態、支援
ニーズなど)

■強度行動障害の方を支援できる社会資源がとても少ない中で、どうチームづくりをしていくのか、行動分析等
で専門家の活用（介入な場面）等必要はあると思うので、一歩進んだ内容が今後進められたらと期待します。

■目立った活動が出来なかったとのことであるが、現状の確認、課題の整理をしたうえで、このワーキングが目
指す方向性と目標を定めていただきたい。

(令和 4 年度区自立支援協議会共通テーマの設定について)

■挙げられているテーマは全国的にも重要と思いますので、堺でも取り上げていくことに異論ありません。

できれば、区単位だからこそ見える、堺市全体の課題などがあれば、提案してもらえるといいのではないかと
思います。

■区の協議会にテーマをおろしてもらうのは市の協議会からのオーダーとして目的をもって取り組めると
思いますが、共通テーマについてはもう少し各区ごとのオーダーを市の協議会でも検討して示してもらえ
るといいかと思っています。共通テーマで各区がお互いの意図や目的を共有しないまま進めると、成果物
などが重複

したりと、堺市として機能的に協議会が運営されているとはいえない状況にもなるのではないのでしょうか。

■共通テーマでの議論は各区の特色や地域課題の整理に役立つように思います。令和3年度から連続性のある共通テーマでの議論によって、市全体の課題（地域資源の充実や偏重などを含む）の整理にも役立つことに期待します。

■様々な支援の連携において協議されていますが、課題の抽出や、対応策を協議されるが、支援者側の視点が多いと考えます。困っているのは、当事者及びその家族等であるため、様々な対応策が出てくるが、当事者及び家族等にとってわかりやすく、使いやすいものなのかを視点として考えていくことも大事と思います。

■テーマ幅が大きいので、取り組みにくさはない。ただ、テーマ幅が大きい上に区の状況でさらに広がる中で、今後の課題集約や検討の場に関する共通イメージを持てたらと思う。

■各区で行った議論のうち共通した課題について、地域の特性に合わせてこれをより深めるとともに、市全体の課題として明確化させていくという意味で、テーマを共通にしていくことは有効かとは思いますが。ただ、このことが、形式化していくと、本来の区協議会を設定した意味や区の独自性が形骸化されていく可能性もあり、これを意識して議論を進める必要があると思いました。令和4年度のテーマについて、家族の複合的な課題をテーマにすることで、地域での様々な相談・支援を行う資源を考え、ネットワークを広げるとともに面的な支援を構築する方法を考えることができると思います。区自立支援協議会の活動の広がりを感じました。一方、協議会の持つ当事者性を考えたときに、今回の共通テーマの立て方、その説明には障害者の主体的な視点が見えないものになっていることを報告文面から感じました。

■R3年の共通テーマについて各区の取り組みが、市全体の新しいワーキングの創設というアクションにつながったのは協議会として重要なことだと思います。次年度以降、新ワーキングの進捗や成果が各区の協議会とも共有されて、ワーキングの議論が深まり、各区の実践やネットワークに活かされることを期待します。

■令和4年度のテーマについては、児童に焦点を当てる所から、広く世代や属性を超えたシームレスな連携・支援を考えるという点では、前年度の連続性もあるが対象は広がったと思いました。区によっては外国人籍の方の内容も出ていた事もあり、具体的な連携や支援への議論が進めばよいのではと捉えました。テーマ内容は良いと思います。複合的な課題を抱える家族への支援という点では、連携・支援を継続して進めていく必要があるので、市協議会としてテーマを出して頂ける事で、分野を超えネットワークづくりを行う上で提示のしやすさがあると思います。

■共通テーマの活かし方については、各区に任されているので、シームレス・連携がキーワードになっていくと思われる。参加機関の機能を理解し、連携した支援について協議を続けることは、協議会のテーマとしてふさわしいものと考えます。

■このテーマはまさに今の日本社会の福祉課題と言ってよいのではないかと。年齢、性別、障害別、機関別など様々なカテゴリーされたものに縛られ、複合的な課題をもつ家族に対応できず、分断されていた支援を縦横ともにシームレスを目指す。協議会での取り組みがその端緒となることを期待する。

(令和4年度新ワーキングチームの設置について)

■令和3年度の取組みを継続・発展させ、新たなワーキングチームでさらに検討を進めていただけることに期待しています。本市のあいすてーしょんでの困難ケースを対象にした障害児支援の連携を阻害する要因についての研究論文がありますので、ワーキングでの検討を進めていく上での参考になるかもしれません。必要でしたらまたお声がけください。

■サービス等利用計画の作成率の向上にもつながるといいと思います。

■今年度各区で取り組んだ共通テーマへの取り組みの中から見えてきた課題に注目して、ワーキンググループの中でも取り組んでもらえると区の協議会との連動を感じることができ、ワーキングチームの機能としてもよいかと思います。

■ワーキングチームが設置されるのは共通テーマに取り組んだ一定の成果かと思います。資料には「縦の連携」のつながりにくさについて着目されているように思いますが、以前から児から者の移行期の課題はあって、特に要対協の見守りケースは課題が多いと感じます。行政間でも個人情報の取扱いの問題から十分な情報が共有されない中、地域のネットワークでどこまで補完できるのか、逆に地域の方が動きやすいのか。そのあたりも検証されたいなと思います。

■相談支援体制を時間軸で考えていくという新たなワーキングは、各区協議会での共通テーマにおける議論やもう一つのワーキンググループである強度行動障害支援ワーキングとの共通性もあり、相互の活動を補完し合う効果が期待できると思います。

■堺市内での障害児に関わる委託相談事業に関して、どのように協働や棲み分けがされているか（地域差もあるか）を検証し、その上で、障害児計画相談の役割や今後の展望について話ができればと思う。医療的ケア児についての課題集約は、一定区協議会でも行う予定だが、ワーキングにも共有できればと思う。

■縦横連携の大切さ、横のネットワークも確立されていない状況を常々感じております。現状の課題をしっかりと確認し、堺市の障害児相談支援体制の構築が出来ることを期待します。

■ワーキングチーム全体に言える事ですが、限られた回数である為、どういった内容で進めていくのが重要になってくると思います。ぜひ各区の共通テーマを通して出た意見から、相談支援体制づくりに役立てて頂けたらと思います。

■障害児相談のニーズは最近特に高まって来ている印象があります。保育・教育との連携などワーキングでの検討に期待します。

■これまで障害児について自立支援協議会がスポットを当てたことはなく、多くの支援者にとって知識や技術がない、資源が限定されるなどの理由から苦手意識もあったのではないかと思う。障害児と一口にいっても多様だとは思いますが、児童期における関わりの中身によって将来が規定されてしまわないような支援実践が問われてくる。縦横連携を視野にいれた相談支援体制の構築に寄与する協議を期待したい。

（堺市の計画相談・障害児計画相談実績の推移について）

■障害者の分野での計画相談は、サービス受給者増の中にも関わらず確実に計画作成率を向上している点は、確実な取組みの成果だと思います。他方、障害児の計画作成率が伸び悩んでいる要因を早急に明らかにすることが求められているように感じます。例えば、保護者への情報提供の実態や就学前から就学期への移行、就学期であっても小・中・高と教育体系の変化など、児童を取り巻く環境変化に相談現場が対応できていない可能性など、何らかの調査検討の必要性を感じました。

■障害児の計画相談について、事業所数、相談員不足を特に感じる。「不登校気味の児童のデイサービス利用に関して計画相談が必要となる」など、ケースひとつひとつではなく、大枠で条件をつけられると本当に必要な方へ届かない現状を作ることになっているようにも思う。

■障害児相談の低下については、児童数の増加と児者切り替えの件数による障害児相談の減少がある為、表の数字以上に新規障害児相談の件数は増加と考えられる。その増加に対し、障害児相談が利用可能な児童の人数が増えていることから、障害児相談の従事者を増やすために相談支援専門員が障害児相談に取り組みやすい環境調整として現在の相談支援サポート事業のカリキュラム入っている障害児相談の回は今後も継続をして実施する必要性が高いと思われる。R4年度のワーキングチームの取り組みも障害児相談の低下から増加と転じる取り組みとなることを期待したい。

■様々な困難さのある家庭は、実際の支援や相談につながるまでのプロセスが難しく、重要になると思います。これまでも、堺市内では、そうした困難ケースに粘り強く支援機関が協力して取り組んできた事例が多くあると思うので、そうした実践にもスポットを当てて、前向きな議論が進むことを期待しています。

■就労移行でもサービスを利用する以前から障害を持っているために生じる生きづらさを抱えておられる方に

出会い、その方々が多くいらっしゃることを日々実感しております。就労移行の2年という期間内では本人について知っていくことに限界があるため、早い段階で関わる方がいらっしゃるとその期間内に出来ることも幅が広がるように思います。

■相談支援ワーキングチームが終了した後も計画相談実績の推移や主任相談支援専門員の活動の報告は有難いので、今後も継続してください。表を見ると障害児計画作成の低下が見て分かる状況ではあるが、単に計画相談事業所が少ないという点だけで見るのではなく、事業所が障害児計画相談の事業を行わない理由等にも焦点を当てる必要があるのではと思います。

堺市健康福祉局障害福祉部障害施策推進課

堺市堺区南瓦町3-1 堺市役所本館7階

電話： 072-228-7818

FAX： 072-228-8918

担当： 齋藤、木田、山口